

## NPOと協働したブナ林再生への取組

下北森林管理署



職員による三基ヒバ支柱の設置方法の説明

10月25日(火)、むつ市葉色山国有林において、採草放牧跡地の笹生い地を森林へ再生する試みとして、NPO法人 森林・環境サポート大畑、むつ市大畑町林業振興対策協議会、むつみらいライオンズクラブ及びびフォレストボランティアと当署との協働による「佐藤ヶ平ブナ林再生に向けた取組」を36名の参加を得て行いました。

この取組を行う約21 ha の採草放牧跡地は、平成12～13年にブナを植栽のうえ返地を受けたもので、植栽木は生育しているものの、雪折れや野兎による食害を受けるなど再生への手助けが必要な状況となっていました。

このため、平成19年度から再生の取組を始め、これまで、採草放牧跡地のうち約1.45 ha について、ブナの植栽、実生更新を期待したレイキ掻き起こし、幼齡木ネットや三基ヒバ支柱の設置による植栽木の保護など各種の方法により、NPOを含む地元の方々と連携した協働作業を行ってきたところです。



参加者による作業の様子



作業終了後に記念撮影

本年度は、ブナ植栽木の雪折れを防ぐため、1.20 ha の新規取組区域では、主として三基ヒバ支柱を設置し、併せて樹高が低く生長の貧弱なものは野兎等の食害防止のため幼齡木ネットを巻き付け保護、一方で樹高の高いものについては一基ヒバ支柱で支えるといった作業を行い、平成20年度に幼齡木ネットを設置した既取組区域のうち、枝葉の生育が良好で込みすぎている0.55 ha の区域ではネットを撤去する作業を実施しました。

当日はあいにく雨の中でカッパを着用しての作業となりましたが、このブナ林の再生が地元大畑流域の豊かな水資源の一助となることを願って、参加者全員が額に汗して一生懸命、作業に取り組んでいました。